

第1学年 音楽科学習指導案

題材名 「 曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取って聴こう 」

教材 「 魔王 」 作曲：シューベルト

〇〇〇〇 中学校  
場所 音楽室  
第1学年〇組(〇〇名)  
指導者 〇〇〇〇

1. 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。 【知識】
- (2) 音色、旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 【思考力、判断力、表現力等】
- (4) 旋律の雰囲気や歌い方の違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。 【学びに向かう力、人間性等】

2. 学習指導要領との関連及び〔共通事項〕

B(1)鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造との関わり

〔共通事項〕(1)ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。

イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。

### 3. 指導にあたって（学ばせたい事項の理由・意図）

#### ・教材観

『魔王』は、シューベルトが18歳の時に作曲したドイツ歌曲（リート）である。ゲーテの同題の詩に青年期の作曲者が触発され、短時間のうちに完成されたといわれている。恐怖と緊張感、そして悲劇的な結末が巧みに表現され、リートの中でも特に劇的な作品として評価されている。

単独の歌手で、魔王におびえる「子」、子をなだめる「父」、子に甘くささやきかける「魔王」、そして最初と最後に場の状況を描写する「語り手」の4役が歌い分けられる。それぞれの登場人物によって異なる音楽表現、ピアノ伴奏が一体となって詩の情景や心情を表現しているため、曲想と音楽の構造との関わりを理解できるようにする学習活動にふさわしい楽曲である。

本題材の指導にあたっては、登場人物ごとにその特質や雰囲気を生み出している要素や音楽の構造について、言葉で説明しあう活動を取り入れ、曲や演奏に対する自分なりの評価やその根拠を明らかにできるようにすることをねらいとする。

#### ・生徒観

（省略）。

#### ・指導観

楽曲全体ではなく、焦点をあてて鑑賞させることで、曲想と音楽の構造との関わりを理解できるようにする。班ごとに「子」、「魔王」、「父」、「語り手」、「ピアノ伴奏」のうちどれかひとつについて、音楽を形づくっている要素とそこから感じ取った特質や雰囲気を考える活動を行う。

また、それを他の班やクラス全体で交流し、作曲者が単独歌手とピアノ伴奏のみで詩の情景や心情を表すためにどのような表現の工夫をしたのかについて、言葉で説明する活動につなげる。本題材では、原語（ドイツ語）による歌唱と日本語による歌唱の2つを比較することで、より音楽を形づくっている要素（歌手や言語によって変化しないもの）がみえるようにする。それぞれが知覚したことを持ち寄り、意見交換・結合をしていく中で、曲や演奏に対する自分なりの評価（感受したこと）とその根拠（知覚したこと）を明らかにできるようにする。

### 4. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	①音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 ②曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	①旋律の雰囲気や歌い方の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

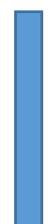
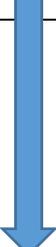
## 5. 指導計画と評価計画（全5時間）

時	◇めあて ○主な学習活動	・共通事項	・評価規準と評価方法
1	◇ゲーテの詩のイメージをふくらませよう		○【態度①】観察 ・詩の内容やイメージについて自分の感じたことを発言していることを確認する。
	○詩の内容やイメージについて理解する		
2 3(本時)	◇登場人物の特徴について、音楽から推理・分析しよう		○【思・判・表①】ワークシート ・登場人物の特質や雰囲気について自分の意見を記入していることを確認する。 ○【態度①】観察 ・登場人物の雰囲気について自分の感じたことを発言していることを確認する。
	○登場人物の特質や雰囲気を生み出している要素や音楽の構造について、言葉で説明する	旋律 強弱	
4	◇推理・分析したことに根拠をもとう		○【知・技①】ワークシート ・詩の内容やイメージと音楽の構造との関わりについて記入していることを確認する。 ○【態度①】観察 ・自分以外の視点からの意見に対して自分の感じたことを発言していることを確認する。
	○曲想と音楽の構造との関わりを理解する	音色 旋律 テクスチャ 強弱	
5	◇推理・分析の根拠とともに、自分なりの評価をしよう		○【思・判・表②】ワーク(副教材) ・曲や演奏に対する評価について自分なりに考え、記入していることを確認する。
	○曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、言葉で説明する	音色 旋律 テクスチャ 強弱	

## 6. 本時の目標

登場人物の特質や雰囲気を生み出している要素や音楽の構造について、言葉で説明することができる

## 7. 本時の展開 (3/5時間)

□めあて ○学習内容 ・ 学習活動		■指導者の発問・支援 ※予想される生徒の姿	評価規準と評価方法		
			知	思	態
導入	○前時までの学習内容・進捗状況を確認  ○本時のめあてを確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">登場人物の特徴について、音楽から推理・分析しよう</div>	■推理・分析のためには自分とは違う意見についても積極的に考えることが大切だと伝える。			①観察 
	○登場人物の特質や雰囲気を生み出している要素や音楽の構造について、言葉で説明する ・班で協力して、登場人物の音楽がどのように工夫されているのかを考える		■原語・日本語それぞれの登場人物ごとの音源と、総譜を Google クラウドにて配信する。  ■ひとり1回は自分の意見や疑問を発言するように声掛けを行う。 ※「子」はどんどん音が高くなっている。 ※「父」はあまり音の高低に差がない。 ※ピアノ伴奏が何回も同じことを繰り返している。 ※「魔王」は長調で最後だけ短調になっている。 ※これってどう変化してる？		①ワークシート 
まとめ	○オクリンクプラスに自分の意見を提出する ・シューベルトの表現の工夫の中で、一番のポイントだと思うことを言葉で説明する	■音楽から感じた登場人物の特質や楽曲全体の雰囲気について、作曲者の視点に立って自分の意見をまとめるように伝える。			

## 8. 使用教材・資料

(省略)